

第52回「海芋」「ソーダ水」または自由

6点句

海芋咲くグレーの空を持ち上げて

惑星

特選 日曜

並選 鮭航太・トホ・井沢軽・夜桃

予選 熊猫山

特選

鉛色の空を持ち上げるほどの清々しい白
さが眩しい

(日曜)

並選

曇り空の下のカラーの花々がすっと立ち
上がり咲いているのが目に浮かぶ。持ち上
げてという表現が灰色と白色の点々がある
抽象画のよう。灰色3白色7くらいの割合
だろうか。

(鮭航太)

曇り空に咲くカラーが美しい、

(トホ)

どんよりと低い梅雨の空に背筋の伸び
た海芋のコントラスト。色も、立ち姿も。

(井沢軽)

まず色がよい。あまりこねくり回してい
ない素直な句。そういう表現はこの花と合
うように思う。

(夜桃)

4点句

純白にカラーの本音隠してる トホ

並選 鮭航太・熊猫山・夜桃・茜

予選 日曜

並選

純白だからこそ本音がわからないってあ
るかとも思いました。ピュアな人を疑いだ
すとどんどんわからなくなってくることっ
てないですか？

(鮭航太)

カラーが海芋の事だと解り、面白いなど。

(熊猫山)

確かにあの花はどこか人間らしさがない
ところがあるな。腑に落ちない花というか。
なんなんだろう海芋。

(夜桃)

白をよみたかった。これはいい。

(茜)

夏の雨幼女のやうな婆の声 鮭航太

特選 惑星

並選 一天・ナッツ

予選 井沢軽

特選

大粒の雨音の中、耳の奥にいつまでも残る
ような老女の甘えた声が聞こえた気がして、
不思議なリアリティを感じました。(惑星)

並選

不思議な感受性を感じました。高野文子
のおばあさんを思いだしながら夏の雨を思
いました。(一天)

歳をとったら子供にかえっていく感じ、
自分の祖母のことを思い出しました。
竹のすだれとたくさんの立葵を眺め思い
出です。

何かの匂いをかいで、ふっと鮮やかに
むかしのことを思い出すような句です。

(ナッツ)

三面に映る海芋や伯母の髪 鮭航太

特選 一天・夜桃

予選 光則

特選

なまめかしいのか、白髪をカラーにたと
えたのか。少しなまめかしいものを感じ
ました。カラーにたとえられる伯母かあ。

(二天)

こちら先ほど入り浸っていた叔母の家のことなのだろうか？ だんだん小説か漫画を読んでいるような気がしてきて続きが気になってきた笑 「海芋の叔母」の続きが読みたいなあ。先ほど書いたとおり海芋という言葉がその花のつるんとした表面的な美しさの見た目に反してアクが強いか別の意味を孕んでいるのでこの叔母さんの人生とかその叔母さんと作者の関係とかそういう一ひと言で表せない人間の重さに合うと思った。

(夜桃)

3点句

そらいろいろの寝るためだけの夏ごろも

夜桃

特選 茜

並選 光則

予選 井沢軽

特選

寝るためだけのっていうの、わかる。涼しいやつ。けして人前にでれないやつ。

(茜)

並選

〜の〜の念の入れようが、単なる部屋着にドラマを生じせしめてとても良いと思えました。

(光則)

予選

女性的。ジェラードピケ感。

(井沢軽)

人生を駆け登りたるソーダ水

夜桃

特選 ナッツ

並選 子牛

特選

ソーダ水 の句の中でも、さわやかさがピカいちだとおもいました！

一個一個のしゅわしゅわが人生なんて素敵だなあとおもいました。

儂いもの、すぐ消えるものはきれいですね。

透明感もあいまって。

(ナッツ)

並選

ソーダ水は無限の可能性を感じて夢見ている時代の飲み物という印象、きつとこの作者は成功者なのだろう、こんな風に言ってみてみたい。

(子牛)

クリームソーダのみほしてたつタキシード

一天

並選 鮭航太・ナッツ・熊猫山

予選 日曜

並選

この人どこかで見たような。結婚式の新婦のお父さんかな。号泣しちゃってへなへなになっちゃいそうだな。

(鮭航太)

絵がおしゃれ。紳士もクリームソーダ。

赤いサ克蘭ボもみえました。

(ナッツ)

たつタキシードが良い。

(熊猫山)

耳奥の小骨震わすソーダ水

井沢軽

並選 鮭航太・日曜・光則

予選 ナッツ

並選

わかる気がする。イタ気持ちいいとかこそば気持ちいいとか。うろうろう。

(鮭航太)

飲み慣れないのかな。強炭酸のタイプかな。

(日曜)

自分の身体の中から聞こえるあの音をこうして表すのかと大変勉強になります！

(光則)

海芋群れ彼の地のすべて漂白す 日曜

特選 熊猫山

並選 惑星

特選

彼の地のすべて漂白すが壮大かつ美しい。
(熊猫山)

並選

花の白さが異国の景色を白く染めている
と言う幻想なのか、はたまた自分が旅をして
いると言う意味での漂泊なのか。

どちらにしろ、浮かぶ絵は同じなのが面白
いと思いました。
(惑星)

快速の通過の影とソーダ水 井沢軽

並選 一天・ナッツ・惑星

予選 光則・子牛

並選

夏の頭上からの強い光線を感じますが、快
速の通過駅でのスピード感とソーダ水の動
きがシンクロして感じます。
(一天)

あちー、なんかのむか。

普段飲まないけどなんか晴れてるしサイ

ダーでも

飲んでみようかな。

むー、やっぱ甘い。この匂い、天然香料っ
てほんとかな。

って、ソーダ水を飲む瞬間に
快速が。

都会の夏のいろんなグレーの色調の中の
涼しげな日常。
(ナッツ)

予選

暑い炎天下、各駅しか止まらない駅で咽喉
を潤しているのかなあ、京王線沿線住民ある
ある。
(子牛)

2点句

主去りて真白く群れる海芋かな 惑星

並選 夜桃・光則

並選

主は神さまのことだろうか？ なぜ神は
去ってしまうのか気になる。たしかに宗教
的な感覚にこの花が似合うかどうか分から
ない。それとも受け入れる花かもしれない。
読んだあともやもやする句だけどそれも含
めて選びました。
(夜桃)

幼虫を持って帰りてソーダ水 光則

並選 子牛・惑星

並選

夏！ 普段は麦茶だけど幼虫ゲットしたか
らちょっと贅沢したのかな。
(子牛)

夏休みのノスタルジー。遠い日々が懐か
しく思い出されました。
(惑星)

鈴の音メープルソープのカラーかな

一天

特選 子牛

予選 井沢軽

特選

涼しげで、コントラストがはっきりしてい
るモノクロ写真のような素敵な句。
(子牛)

予選

「鈴の音」がイメージしきれなかった。な
んで鈴なんですよ？
(井沢軽)

夏闇や喉をするりと生卵 鮭航太

並選 一天・トホ

予選 井沢軽

並選

感性的にはもっともじっくりくる世界。
卵は眼球であり、自らの視界をも飲み込んで

闇を見る。眼球譚を思わせる句。金子國義の眼球譚の挿絵を思い出しました。(二天) 蛇の気持ち悪さにゾクっとしました

(トホ)

予選

妖怪タマゴノミ。生卵を飲みこむってどんな・・・。(井沢軽)

閃光のトウキビ齧る汁散らす ナッツ

特選 トホ

特選

みずみずしいともろこしが弾ける質感があつて素晴らしい (トホ)

ソーダ水耳を澄ませば断末魔 日曜

特選 鮭航太

予選 ナッツ・井沢軽・熊猫山

特選

この取り合わせ凄いな。ソーダと断末魔。。。

どういうわけかリアリティーを感じる。隣の部屋で誰かが殺されるのを知っているながら、平然とソーダを飲んでいる。

この人、恐ろしい人や。(鮭航太)

未来へと続く炎天ソーダ水 一天

並選 トホ・光則

並選

子供の頃の夏、キリンレモンと幸せな時間、無限に可能性がある感じがしました (トホ)

あの頃はなんとも思わずただあちいなーと過ごした夏はたしかに明るく開けた未来に続いてたはずなんですけどね。どうしてこうなった。(光則)

終点の瀧へと向かふ梅雨曇 鮭航太

特選 井沢軽

予選 日曜

特選

トレッキングの目的地という解釈よりも、雲が滝壺に吸い込まれて行くという方が映像が美しくいい。ここから梅雨が明ければいいな。(井沢軽)

歌の中はじける永遠のソーダ水 惑星

特選 光則

予選 日曜

特選

ソーダ水の登場する歌、相当古い曲のはずだけどそれは歌い継がれている間ずっと炭酸をシュワシュワさせ続けているのです。素敵な句だと思いました。(光則)

白く立つ仏の如し海芋かな 茜

並選 井沢軽・惑星

予選 鮭航太

並選

会津観音像。最近、マスクをしたと話題になってました。淡路島、仙台にもあるけど白い海芋の立ち姿と色合いとしなやかさは会津観音がリードか。大船は半身なので不可。高崎白衣観音も固い。。。 (井沢軽)

予選

確かにカラーは大仏の手のようでもあり、まっすぐ立ち上がる姿は神々しい。(鮭航太)

千鳥足弾ける記憶はそーだすい

熊猫山

並選 井沢軽・茜

予選 日曜・ナッツ・夜桃

並選

コロナでなかなか千鳥足もご無沙汰して
ます。「ソーだすい」の平仮名表記が酔いを
象徴していていい感じですよ。
(井沢軽)

ソーたすいー。
(茜)

予選

前回に続き80%な気分は健在 (日曜)

今回意外とソーダ水を全く選ばなかった。
言葉そのものがオブジェとして完成され
ぎているというか、そのせいで前後に何を
付けても陳腐化しやすいむずかしさがある。
なのでえいっとひらがなに変えてしまっ
たのはいちばん正解感がある。
(夜桃)

1点句

嫁ぐ日の友や気高く白き花 子牛

並選 熊猫山

今年こそ冷やし中華の過ぎぬ間に

熊猫山

並選 茜

並選

なんか食べそびれるんだよね。
でも食べたい。
(茜)

ソーダ水飲み干しびる獲物かな 光則

並選 茜

並選

一仕事する前の気合。
(茜)

ソーダ水飲みぬ友より荷が届き 茜

並選 日曜

並選

飲めない人ってたまにいますね。どんな
荷物が届いたのだろうか。
(日曜)

バツサリと短く切られたカラー活け トホ

並選 子牛

並選

バツサリと切られたのはカラーの茎だっ
たのか、作者の髪だったのか。すっきりと
した夏。特選か並選かで迷った。
(子牛)

ほだされて妖精ちりぢりソーダ水 夜桃

並選 日曜

並選

炭酸が弾ける表現として突出していまし
た。
(日曜)

池の端海芋ひと群れ光射す 子牛

並選 日曜

並選

素直な描写、白さが際立っている印象を受
けました。
(日曜)

サイダーを片手に握るゴリラかな 鮭航太

並選 井沢軽

予選 トホ

並選

ゴリラみたいなおっさん、サイダー飲みそ
う。サイミたいなおっさんも。
(井沢軽)

予選

ゴリラのような人、夏の暑さ感じました、
(トホ)

ソーダ水2色のストローばかり見て

惑星

並選 子牛

並選

初めてのデートかなあ。

(子牛)

叔母生ける海芋の部屋に入り浸り茜

並選 夜桃

並選

夏の涼しさと寂しさが伝わってくる。海芋という花の見た目に反してこの漢字のアクの強さがこの季語の難しいところこの句ではそれが上手く活かされているように感じる。

(夜桃)

車座で地べたにあぐらソーダ水

ナッツ

並選 一天

並選

なんだか暑そうで好き。夏の炎天下感がでている。

(一天)

五十の日ノースリーブに差す海芋

井沢軽

並選 熊猫山

予選 鮭航太・光則

並選

目に浮かびます、美しい。

(熊猫山)

予選

人物像が想像出来るような。ノースリーブを着た女性が人生の節目で純白のカラーを選び、花瓶に挿す。未来への覚悟を感じる。

あれ？ でもノースリーブに差す？ ん？

(鮭航太)

透き通る泡喋りおりソーダ水

茜

並選 ナッツ

並選

素直な感じがすこやかで好き。大人になっても注いだソーダ水はずっとみてしまう。ひとりなら、顔を近づけて顔に泡をあてます。

しゅわしゅわって魅力的ですね。威力が弱くなるとちょっとさみしくなる

感じ、

喋りおり でわかります。

(ナッツ)

装苑とカラーの花束似合う友 惑星

並選 トホ

予選 子牛

並選

お洒落で優雅な女子、なんとも憧れる

(トホ)

予選

そうそう、カラーってそういう感じの花。

(子牛)

0点句

売店の伝えし赤きソーダ水 井沢軽

ソーダ水あわ消えピザ冷め目を見ない 子牛

予選 日曜・ナッツ・熊猫山

仁丹の落ちて噴き出すソーダ水 光則

ソーダ水モルトの琥珀揺れ溶ける

トホ

オクラ茹で翠が茹だる透明へ ナッツ

川端とリルケの詩集カラー抱き 子牛

純白の海芋あなたの腕のなか 一天

竿を置き日陰に寄りてソーダ水 光則

予選 ナッツ・井沢軽

とんがりを競うておるか海芋殿 茜

予選 井沢軽・光則

予選

あの尖端部をなんと言おうか考えていて、
自分は諦めました。とんがり、わかりやすい！
(井沢軽)

なんでやねん夏過ぎるわからんけど

熊猫山

ソーダ水あなたがプシュと開ける音

トホ

アイス溶けソーダ水だけ注ぎ足され

日曜

男ありパイナップルの炒飯あり

ナッツ

予選 熊猫山・夜桃

予選

嫌な予感がする句笑 パイナップルは一
見甘酸っぱくてかわいいのだけど実は恋
を邪魔するような危険なフルーツだと私も
思っています笑
(夜桃)

襟正し鬼の居る間の半夏雨 熊猫山

予選 日曜・ナッツ・夜桃

予選

半夏と合う雰囲気好きなのだけど、「鬼
の居ぬ間」でなくて居ると敢えて表現して
いるのでなんなんだろう気になる感のせい
でちょっと気が散るというか笑 もっとシ
ンプルでも良かったかなと個人的に思いま
した。
(夜桃)

体液のカフェイン抜くやソーダ水

井沢軽

ユーミンと見果てぬ夢とソーダ水

子牛

多すぎて飲みきれないのソーダ水

光則

栓抜きやこつちのソーダは甘いぞ

ナッツ

車窓から海芋の白きパノラマ 日曜

ソーダ水越しの景色に救われて 日曜

蛇うねる道を横切る二人鳴く 夜桃

予選 ナッツ

伸ばしても叶わぬ夢は亀の首 夜桃

予選 井沢軽・熊猫山

予選

エロ俳句。夢を叶えてください。

(井沢軽)

男と女のあいだ緑のソーダ水 一天

500ミリ最初のひとくちソーダ水

トホ

総評

今回の題は難しく、この題では二句しか出来なかった。普段は僕が出しているんだけど、今回は子牛さんをお願いした。自分では選ばないであろう題で句を考えるの難しいけど、とても新鮮で面白いのでこれからもこのやり方を続けたいと思う。(鮭航太)

ソーダ水は好きな季語なので嬉しかったです！

しゅわしゅわな句がたくさんで涼しげ。

炭酸水を毎日飲んでますが、ソーダ水っていうと

甘いイメージがするのもおもしろいです。

カラーはなじみがなくてうかばなかったです。

ワインレッドのカラーがサブスクできた

ときは

おしゃれな花だなあと思いました。

でも白のイメージが強いから

皆さん白いカラーの感じで詠まれています

ね。

(ナッツ)

海芋は白く凛と立つイメージが固まってしまい、なかなか面白く詠めなかった。その点ソーダ水は、ビジュアル、サウンド、抽象性含めて自由度の高い季語と理解しました。今月は意外性や驚きのある句が少ない印象だったので、逆に講評会でみんなの読解力を聞くのが楽しみです。(井沢軽)

海芋は自分に馴染みがなく難しく感じた季題でした。白さ美しさが際立つ句が多く集まった印象があります。逆にソーダ水は読みやすいと思いつつ、身近すぎるのかその清涼感のイメージが強すぎるのか意外と難しく感じました。集まった句はソーダ水

との関係性や距離感の描写がバラエティに富んでいて楽しかったです。(日曜)

海芋もソーダ水も意外とむずかしい季語でしたね。どちらも単語としてひとつぽつんと置いておくだけで絵になるような素敵な言葉のオブジェであり、完成度がある。それゆえに持っているイメージの量が重すぎるというか：

海芋は不必要に文学的で重いし、ソーダ水は不必要にユーミン。

前後に何かを付けると邪魔になってしまふところがある。こういう言葉をどう料理するかはけっこうな力量が要るなと思いましたが。(夜桃)

今回は個人的に今までで一二を争う難しいお題でしたが、だからこそ皆さんの視点がいずれもよらない方向できちんと成立しているのが感動的でした。(光則)